

品川稲門会会報 16

<http://www.shinagawa-waseda.net>

品川稲門会の1年を振り返って

品川稲門会幹事長 渡辺寿士 (H2法)

昨年の通常総会からの1年を振り返ります。

9月8日、例年通りTKPガーデンシティ品川にて、根本進早稲田大学地域担当部長、金森捷三郎大田稲門会会長をお招きして第28回総会が開催されました。議事は滞りなく進行し、2018年度の行事予定と新役員が決定しました。懇親会では、校友でお馴染みの榎村ひろ子さんのシャンソンを楽しみました。

10月21日の稲門祭は、これも例年通り大隈庭園内にテント出店し、やきそばやフランクフルトを販売しました。今井将雄さんとお手伝いに参加の皆さん、お世話様でした。また品川稲門会では毎年、稲門祭の福引景品として、品川海苔詰合せを寄贈しています。

10月26日には秋のゴルフ会がグレンオクスで行われました。品川稲門会のゴルフはいつも好天に恵まれ、幹事の長久保敏さんは「晴男さん」の異名を取っています。

11月25日の秋のウォーキングの会では、五島美術館で美術鑑賞を楽しみ、等々力渓谷の自然を散策満喫するという盛りだくさんの一日でした。

年末の12月8日、第5回若手校友の集いが北品川地域交流施設で開催され、63名が参加しました。今回は初めて12月に催されましたが、例年のように盛況でした。

正月3日は、今年も品川女子学院のご協力をいただき、新年会を兼ねた箱根駅伝応援会を行いました。74名の参加がありこれも大盛況でしたが、母校早稲田は残念ながらシード落ちとなりました。相良監督をはじめ競走部には捲土重来を期待します。

続いての七福神めぐりは1月13日、北千住の千寿七福神を13名がめぐりました。七福神めぐり後の昼食会はフレンチでした。長谷山純さんの店選びは毎年好評です。

東京都23区支部大会は、3月17日にリーガロイヤルホテル東京で行われ、品川稲門会からは12名が参加しました。

春の恒例行事はゴルフ会、おおもりのジャズ、ウォーキング&グルメの会です。春のゴルフ会は5月10日に千葉県グレンオクスCCで行われました。

5月12日には、母の日恒例の「おおもりのジャズ」が大森ベルポートで開催されました。早稲田3大学ビッグバンドジャズフェスティバルは、第19回を数えることになりました。優勝賞金獲得を目指しての競演では、早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラが見事に3連覇を達成しました。

6月9日の春のウォーキング&グルメの会では多摩森林科学園の自然を散策し、武蔵陵墓地(多摩御陵)の4陵を参拝しました。

校友会から2点のお知らせがあります。すでにメール等でもご案内しましたが、スポーツ科学学術院と校友会では「WASEDA'S Health Study」への登録者を募集中です。とりわけインターネットによる健康調査を行うAコースは容易に協力が可能です。現在、「図書カードプレゼントキャンペーン」が実施されています。

校友会のwebサイトの「母校支援」から登録のページに進めますので、この機会にぜひご登録ください。

2015年9月から募集を開始した「早稲田アリーナ募金」は目標金額20億円を達成しました。なお早稲田アリーナは完成し活動していますが、本募金は2020年3月末まで募集しています。

今年の品川稲門会の総会は、9月14日(土曜日)にTKPガーデンシティ品川「アネモネの間」で開催されます。ぜひご参加ください。



第29回品川稲門会総会

日時：2019年9月14日 午後6時～

場所：TKPガーデンシティ品川

港区高輪3-13-3 SHINAGAWA GOOS

(品川駅高輪口から徒歩1分)

参加費：8000円

年会費：3000円

品川稲門会会報16号 2019年8月1日発行

発行 = 品川稲門会 発行人 = 塚田成四郎

事務局 = 〒140-0004 品川区南品川4-5-4-222

渡辺寿士 (TEL.03-3471-7524)

印刷所 = (有)大成閣印刷



第28回品川稲門会総会

2018(平成30)年9月8日、品川稲門会総会が行われました。会場は、平成28年の新年会以来、品川稲門会の総会の会場としてすっかり定着した、品川駅前のホテルグース地下1階、TKPガーデンシティ品川のアネモネの間です。出席者は37名でした。例年、出席者を一人でも多くと役員一同声掛けを行っていますが、さらなる努力が必要のようです。

第一部の総会は、塚田成四郎品川稲門会会長の開会の辞から始まって、ご来賓の根本進早稲田大学地域担当部長からご挨拶をいただき、議事に入りました。司会は私神野吉弘が担当しました。

まずは、小林義行副会長から2018年度の事業報告があり、来期の予定が発表されました。続いて松井博之会計による会計報告と、高橋慎司監査による監査報告がありました。

役員改選の年に当たるため新年度の役員人事へと議題は進み、会場から全ての議題についてご承認をいただきました。

ちょっと緊張した総会も無事終わり、第二部の懇親会の始まりです。司会は勝山宏則副幹事長に替わりました。

品川稲門会相談役である濱野健品川区長の乾杯から、ご来賓の金森捷三郎大田稲門会会長にご挨拶をいただきました。長久保敏理事から秋のゴルフ会のご案内があり、毎年行っているゴルフ会に、多くの会員の皆様の参加をと呼びかけました。

今年のアトラクションは歌手の櫻村ひろ子さん。中澤郁子副会長からのプロフィール紹介に続き、素晴らしいシャンソンを熱唱していただきました。会場の皆さんも一緒になって口ずさみ、大いに盛り上がりました。

賑やかに進んだ会も、そろそろお開き。全員での校歌斉唱に続き、最後は、小林義行副会長が今後の品川稲門会のさらなる発展を熱く語って、閉会となりました。

(神野吉弘 S57政経)

品川稲門会役員名簿 (2018年度～2019年度)

会長＝塚田成四郎 (1975法) 商議員
 副会長＝小林義行 (1967理工) 商議員 稲門祭実行委員
 副会長＝中澤郁子 (1958教育) 商議員 稲門祭実行委員
 副会長＝保科義和 (1962理工)
 幹事長＝渡辺寿士 (1990法) 代議員
 幹事長代行＝神野吉弘 (1982政経) 代議員
 副幹事長＝勝山宏則 (1990理工) 代議員 東京都23区支部幹事
 副幹事長＝木伏源太 (2002政経) 青年部会長
 副幹事長＝中尾公一 (1993理工)
 会計＝今井将雄 (1988政経) 稲門祭実行委員
 会計＝松井博之 (1977政経) 代議員 おおもりジャズ実行委員
 監査＝高橋慎司 (1983政経)
 監査＝長谷山純 (1978理工) 代議員 おおもりジャズ実行委員
 理事＝有吉輝恒 (1964教育)
 理事＝飯島節子 (1962文)
 理事＝岸田洋明 (1995文)
 理事＝佐藤清美 (1983政経)
 理事＝鈴木治樹 (1966商)
 理事＝鈴木真澄 (1976法)
 理事＝築館武雄 (1977文)
 理事＝長久保敏 (1970理工) 稲門祭実行委員
 理事＝牧絹子 (1966教育)
 相談役＝小林忠雍 (1958政経) 商議員 前会長
 相談役＝濱野健 (1973政経) 品川区長



箱根駅伝応援会と新年会

1月3日10時、品川女子学院カフェテリアに東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)の復路応援会の人々が集まりました。昨年から品川稲門会の新年会も兼ねるようになりました。

この箱根駅伝応援会は、今は亡き漆邦臣先生が少年時代から親しんできた駅伝の応援を品川稲門会の行事の一つにしようと企画し、品川女子学院のご協力を得て例年続けられています。

年末の12月に、若手校友の集いが忘年会として開催されたことが良い効果を生んだのか、若手校友の新規参加者が多くなり、大盛況74人の参加となりました。

会場には、幹事が用意した飲み物と料理のほかに差し入れの酒類や菓子類もあり、カフェテリア中央にある大スクリーンに復路のテレビ放送が映し出されています。

また、品川女子学院正門前の第一京浜沿道には早稲田大学の幟と横断幕が設置されて、応援態勢は万全です。

塚田会長の新年挨拶から始まり、ご来賓の挨拶もあって、乾杯の後はテレビ中継を横目にしばしの歓談です。

いよいよ10区のランナーが六郷橋を渡るようになると、品川女子学院正門前に移動します。早稲田の走者が近づくと、みな一斉にWの小旗を振りながら「都の西北」を大合唱し、応援は最高潮に達しました。早稲田が我々の前を駆け抜けていくとまた、会場にもどってテレビ中継のスクリーンに向かってゴールまでの応援です。最後に校歌を

唱って、散会となりました。

平成最後の第95回箱根駅伝は、東海大学が46度目の出場で初の総合優勝を成し遂げました。青山学院大学は、往路で6位と出遅れて総合5連覇はなりませんでしたが、復路では5連覇を果たし、優勝候補の意地を見せました。

早稲田大学は1区で4位となって大いに期待しましたが、エース区間の2区で18位と大きく失速して往路15位の惨敗となりました。3日の復路も泣かず飛ばずで、総合10位の中央学院大学に1分以上の差をつけられて、12位で終わりました。ただ、11位の中央大学とは同タイム入着だったので、応援のみんなをちょっとだけ沸かせてくれました。

13年ぶりにシード権を失いましたが、選手諸君にはこの悔しさを糧に復活してほしいと願います。



東京都23区支部大会



2019年3月17日(日)午後4時～8時、リーガロイヤルホテル東京において、2018年度の東京都23区支部大会が開催されました。ご来賓として田中愛治総長と、萬代晃校友会代表幹事ほか校友会幹事代表会から3名が臨席されました。また、東京三多摩、埼玉県、千葉県、神奈川県からも各支部長が臨席し、東京都23区の各区稲門会から総勢320名の校友が参集しました。品川稲門会からは12名が出席しました。

第一部の講演会は、日本ラグビー協会名誉会長で東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員長などを務める元内閣総理大臣森喜朗氏を招聘しました。演題は「2019ラグビーワールドカップ・2020東京オリンピック・パラリンピック」でした。予定時間を超えてのご講演と質疑応答があり、時宜を得たテーマと人を引きつけるお話しは聴衆を魅了しました。

第二部の懇親会は、高田宜美東京都23区支部長の開会挨拶で始まりました。田中愛治総長が挨拶に立ち、早稲田が世界のトップグループを目指す方針を示しました。その一つ医学部の検討は、現代の医学部教育は医学博士だけでは成り立たず、理学・工学をはじめ、哲学・法学・行政学などの知識も欠かせない。総合大学である早稲田はこれらを備えているとの考えからだそうです。

高田支部長から田中総長に大学への寄附金贈呈のセレモニーがあった後、萬代晃校友会代表幹事の音頭によって乾杯が行われました。

アトラクションでは、練馬稲門会フォークソング愛好会が出演しました。1970年代に流行った懐かしの曲を会場の参加者と一緒に歌いました。フィナーレには応援部によるリードで応援歌をメドレーし、早稲田大学校歌を斉唱しました。

東京都23区支部は、2018年4月より支部の運営体制を「1区支部長・1年輪番制」から「ブロック支部長・4年輪番制」に変更しました。新体制になり初めての最大行事でしたが、高田支部長のもと第2ブロック所属8稲門会の幹事がまとまり、校友会事務局と連携を図り、東京都23区支部の各稲門会の協力を得て、支部大会は大盛況のもとに幕を閉じることができました。

(勝山宏則 H2理工)



おおもりジャズ

「おおもりジャズ」の名で定着した「早慶明3大学ビッグバンドジャズフェスティバル」は、今年で第19回となりました。毎年恒例の母の日の5月12日(日)に、濱野品川区長と松原大田区長を来賓としてお迎えし、満員の会場大森ベルポートで行われました。

第一部は、早慶明3大学ビッグバンドが登場し、優勝賞金獲得を目指して競演しました。

皆さんは「早稲田大学ハイソサエティ・オーケストラ」をご存知ですか? 「ハイソ」のホームページによると、早大唯一のビッグバンド(大編成ジャズ楽団)であり、大学公認サークルとして1955年に創立した。「ハイソ」の名で親しまれ、学生ビッグバンドジャズ界を代表する存在として、その名を広く知られている。…とあります。

その実力は、権威ある全日本山野ビッグバンドジャズコンテストで最優秀賞10回(最多受賞)と際立っていますが、今年の「おおもりジャズ」において、何と史上初の3連覇を達成しました!

第二部は、招待校として品川区にある青稜中学校・高等学校吹奏楽部が登場し、3大学ピックアップバンドとの素敵な共演を聴かせてくれました。続いて、今年のゲスト、トランペッターのエリック・ミヤシロさんが登壇。満員の聴衆を酔わせました。



品川稲門会は大田稲門会などとともに、大会実行委員会の一員として企画運営を行っています。そして、早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学のOB&OGと協力して、この「おおもりジャズ」を応援しています。

来年は20回の記念大会となります。是非、ハイソを始めとした学生ビッグバンド最高峰の演奏を聴きにいらしてください。来場された皆様の拍手の大きさが優勝校が決まります! (松井博之 S52 政経)

稲門祭&ホームカミングデー

早稲田大学では毎年秋に、卒業後25年や30年などの校友を招待してホームカミングデーが開催されます。同時に行われるのが、早稲田大学校友会主催の稲門祭です。

昨年は「WASEDA DNA 私たちには同じ血が流れている」をテーマにして10月21日に開催されました。稲門祭は校友会最大のイベントで、校友はもちろん、家族、学生、友人など約1万6千人が集い、活気に満ちあふれたお祭りとなりました。

稲門音楽祭ではジャズやクラシックなど多種多様な音楽が演奏され、パレードでは応援部や下駄っばーずなどの現役学生のパフォーマンスもありました。

また、大隈庭園やキャンパスには年次稲門会や地域稲門会などによる模擬店が多数出店し、軽食や飲み物を販売しました。地方の物産や名店の味、銘酒まで楽しめるのは、全国各地から校友が集まる稲門祭ならではの、ほかにトークショーやキッズ向けイベント、そして最後に福引き抽選がありますので、丸一日、懐かしいキャンパスで多くの校友が楽しい時間を過ごしました。

これだけの大きなイベントですから、当然ながら校友会の力だけでは運営できません。毎年多くの現役学生が手伝ってくれています。この場を借りて感謝します。

我ら品川稲門会は、毎年大隈庭園の一角で焼きそばの模擬店を出店しています。ほかにも東京都23区支部、東京三多摩支部、神奈川県支部などが多種多様な模擬店を



出店します。庭園中央に特設ステージが置かれ、様々な団体によるバンド演奏やダンスのパフォーマンスがなされます。当日は好天に恵まれ、多数のお客さんが模擬店で買った食べ物を頬張りながらパフォーマンスを楽しみました。品川稲門会の焼きそばはプロが作りますので、味が自慢です。我々は一生懸命声を張り上げてお客さんの呼び込みをし、売上増加を目指しました。

2019年の稲門祭は10月20日(日)に開催されます。瀬古利彦さんが実行委員長を務めますので、今回のテーマは「走れ!! WASEDA-世界へ未来へ 轡をつないで-」です。今年も活気に満ちた早稲田パワー全開のお祭りなることは間違いありません。お誘い合わせのうえ是非ともご参加下さい。品川稲門会は今年も大隈庭園で焼きそばのお店を出します。(今井将雄 S63 政経)

ウォーキングの会

■2018年秋のウォーキング

平成30年11月25日(日)、品川稲門会ウォーキングの会は、雲一つない秋晴れに恵まれ、東急大井町線沿線にある五島美術館から等々力溪谷を巡りました。

参加者8名は上野毛駅に午前10時集合、徒歩5分で五島美術館に到着しました。五島美術館は、国宝の「源氏物語絵巻」や「紫式部日記絵巻」をはじめ、重要文化財を含む日本と東洋の古美術品を所蔵していることで有名です。敷地内には武蔵野の雑木林が多摩川に向かって傾斜する庭園があり、大日如来や六地藏などの石仏が点在しています。

当日は、『東西数寄者の審美眼』と題した展覧会が開催され、東急の五島慶太氏と阪急の小林一三氏が蒐集した国宝や重要文化財を含む数々の古美術品が展示されていました。関東と関西で互いに鉄道、百貨店など様々な事業に携わった両巨頭の心の安らぎの時を垣間見た感じでした。

続いて等々力溪谷を目指して歩くと、途中の野毛山公園内に、野毛大塚古墳があります。意外と大きくて帆立貝式という円墳です。石棺がどう納められていたかという図式看板を見ながら、古墳が築かれた遠い古代に思いを巡らせました。

さらに歩いて等々力溪谷へ。溪谷入り口から階段を下りると別世界です。多摩川の支流矢沢川に沿った約1kmの遊歩道のあちこちから湧水があり、都会の騒音から逃れて秋の紅葉と静寂に浸ることができました。

ちなみに、茶店が横にある不動の滝は、その昔は水量が多く、水が流れ落ちる爆音が轟いていたそうです。そこで、「トドロキ→等々力」という地名になったとか。

約9000歩のウォーキングの後、等々力駅近くのお蕎麦屋さんとで歓談の一時を過ごしました。

■2019年春のウォーキング

令和元年6月9日(日)、八王子市高尾にある多摩森林科学園と、武蔵陵墓地(多摩御陵)を訪れました。

JR中央本線高尾駅から徒歩15分、多摩森林科学園があります。森林に関する研究機関で、「森の科学館」にいろいろな資料が展示されています。「サクラ保存林」には全国各地のサクラ約1千本が植えられています。また、「樹木園」には国内外の樹木が植採され、様々な野生植物も生え、たくさんの生き物に出会うことができます。

梅雨の合間の晴れ予想から一転して霧雨の中、緑濃い園内は時折聞こえる小鳥のさえずりやキジの甲高い鳴き声以外は静まりかえっていました。参加者7名は、園内周遊90分の回路を巡り、都会の喧騒をしばし忘れて森林浴を堪能しました。

多摩森林科学園に隣接して、皇室墓地である武蔵陵墓地があります。高尾駅からは入り口まで徒歩15分です。

武蔵陵墓地には、大正天皇陵である多摩陵(たまのみささぎ)と、貞明皇后陵である多摩東陵(たまのひがしのみささぎ)、昭和天皇陵である武蔵野陵(むさしのみささぎ)、香淳皇后陵である武蔵野東陵(むさしのひがしのみささぎ)が4陵、北山杉に囲まれて並んでいます。形状は上円下方のまさに古墳のようです。御陵は神社ではありませんが、鳥居も手水場もあり、おのずと物静かな雰囲気を出しています。

雨が上がって静寂な張り詰めた空気の中、ケヤキ並木が続く参道の玉砂利を踏みしめながら順に参拝しました。

荘厳な気持ちになっての帰路は、予約しておいた店に寄り道です。高尾名物トドロキ蕎麦などを肴に酒を堪能して、ウォーキングを締めくくりました。

■昭和天皇と呼ぶのに、平成天皇と呼ばないのは何故

2019年5月1日、令和元年となりました。平成31年4月30日に退位された第125代天皇明仁は上皇(上皇陛下)となられ、美智子さまは美智子上皇后(上皇后陛下)となられました。そして、皇太子徳仁さまが第126代天皇(天皇陛下)に即位され、雅子さまは皇后陛下となられました。また、秋篠宮さまは皇嗣殿下となられました。

ところで上記のように、大正、昭和の各時代の天皇を

「大正天皇」「昭和天皇」と呼んでいるのに、平成時代の明仁天皇陛下を「平成天皇」とは呼びません。何故でしょう。それは「大正天皇」「昭和天皇」という呼び方が「諡」(おくりな=崩御後の追号)だからです。死後にその徳をたたえて贈る称号ですから、崩御されるまでは使うことができない呼び名なのです。

「祝日法」によって、天皇誕生日は徳仁天皇の誕生日である2月23日へ移動しました。上皇の誕生日は二重の権威を避けるため祝日としないことになっています。ですから、12月23日は祝日ではなくなり、今年2019年(令和元年)は天皇誕生日が無い年となりました。

(小林義行 S42 理工)



ゴルフ懇親会

■第61回品川稲門会ゴルフ大会

恒例秋の品川稲門会ゴルフ大会が、2018年10月26日に千葉県香取市のグレンオークスCCで開催されました。

参加者は2組7名と予定よりも少人数でしたが、秋晴れに恵まれて、楽しい時間を堪能することができました。

競技は新ペリア方式にてハンディを決め、ネットスコアにて順位を決定します。優勝は長久保さん＝ネット75.4、準優勝は住友さん＝ネット76.4、第3位賞は中山さん＝ネット76.8の大接戦でした。そしてBB賞やニアピン賞、参加賞をそれぞれ獲得しました。

懇親会では和やかな中にも、18ホールを制覇した心地よさも味わいつつ珍プレーやグッドショットなどにも話題が広がり楽しい時間を過ごしました。その中で今後のゴルフ大会の開催地や回数についていろいろ意見交換しました。

■第62回品川稲門会ゴルフ大会

2019年5月10日、グレンオークスCCにて春の品川稲門会ゴルフ大会が開催されました。

初夏を思わせる絶好の五月晴れとなり、9名のゴルフ愛好家が集い、半袖姿で熱戦を繰り広げました。高齢参加者も考慮してキャディー付きにしました。また競技は新ペリア方式で行い、ハンディ算定方法は足切り無しでハンディの上限も無しとしましたので、どんなハンディが生まれるか楽しみでした。結果は内緒にしておきます。

特筆すべきは今回初参加の大内さんが、午後のパープ



プレーにおいてグロス36のパープレーでまわり、実力を大いに発揮しました。品川稲門会の歴史始まって以来の出来事に一同驚きの声を上げていました。

入浴後、パーティ会場にて表彰式を行いました。優勝は長久保さん＝ネット73.2、準優勝は大内さん＝ネット75.0、第3位は勝山さん＝ネット75.2でした。最年長で参加の玉木さんは米寿を迎えたにもかかわらずお元気で上位に入りました。

懇親会では笑顔、笑顔の中で歓談しました。楽しみにしている次のゴルフ大会についても話し合い、参加者が多くなるように開催時期と場所を別途調整することとして散会しました。
(長久保敏 S45 理工)

千住宿の千寿七福神めぐり

新年七福神巡りは今度で16回目でした。参加者は13名、顔ぶれは概ね固定化されていますが毎年必ず初参加の方もいらっしゃるのが嬉しい限りです。1月13日の日曜日、最近は何かと話題の千住、今年ブレイクしている歌手のあいみょんちゃんの歌詞にも出てくる北千住駅に集合し、千寿七福神を巡りました。

千住宿は品川宿と同じく江戸を出て第一の宿場、松尾芭蕉「奥の細道」の旅立ちの地でもあり旧日光街道とその周辺にはかつての賑わいと繁栄の面影が残っています。

七福神は比較的新しく2008年に町おこしを願って近隣の神社・寺院に石造を安置したのが始まりとのこと。千住本氷川神社＝大黒天→大川町氷川神社＝布袋尊→元宿神社＝寿老人→千住神社＝恵比寿天→八幡神社＝毘沙門天→河原町稲荷神社＝福祿寿→仲町氷川神社＝弁財天と、約2時間掛けてのお参りをしました。

恒例の昼食会はフレンチにしました。足立区生まれで十数年海外修行した若きシェフが故郷にオープンしたLA CULIYA(ラ・クリヤ)というお店です。

今年は予算内に納めるべくレシートを公開しました。一人前2500円のランチコースは大変好評でしたが、着目すべきはドリンクです。着席の途端に「僕生中、俺も、

オレも、私も」「ねえ、小さいのある？じゃ私も」一斉に言うから13人なのに14個注文。「いいよ、置いときゃ誰か呑むだろ」。一息ついて料理が出てくると「俺スパークリング頂戴、ワタシにも」。すかさず「ハイボール2つ」「ワイン、ボトルにしない？」「じゃ白と赤、ボトルで」もう止まらない。大いに盛り上がりました。

(長谷山純 S53 理工)



第17代新総長に期待する

品川稲門会会長 塚田成四郎 (S50 法)

鎌田薫総長が、2018年11月4日をもって任期満了となりました。それに伴って総長選挙が実施され、早稲田大学第17代総長に政治経済学術院(政治経済学部)の田中愛治教授が選出されました。政治経済学部からの総長就任は、第9代(1968~1970年)の時子山常三郎総長以来で、50年ぶりとなりました。

因みに田中愛治総長は、私と同じ1951年生まれです。学部は法学と政経と異なりますが1975年の同じ卒業年次です。また、早稲田大学には一般の私立大学のような理事長と学長という独立した役職は無く、総長が経営と教学の両方を兼務する最高責任者となっています。

今回は総長選挙制度が改正され、選挙権が商議員に与えられたことが特筆すべきことでした。従前は、学内の教職員と評議員が選挙人でしたが、新しく約千名の商議員にも選挙権が与えられました。品川稲門会からも商議員である私塚田成四郎と、小林義行、中澤郁子、小林忠雍の4名に選挙権が与えられました。

また、総長の候補者が従来の推薦制から立候補制に変わりました。総長選に立候補したのは、薫谷友紀教育・総合科学学術院教授、島田陽一法学学術院教授、田中愛治政治経済学術院教授の3名でした。それぞれの立候補者からの立候補の弁と推薦者のメッセージが届きました。島田候補の推薦者に鎌田薫総長がいたため、商議員の間

では、総長は中立の立場にいるべきなのに禅譲して院政を敷くつもりなのか、などの声が聞こえてきました。

6月に行われた投票の結果、1位の島田候補の得票が過半数に達しなかったため、2位田中候補との2名による再投票が行われることになりました。そして決選再投票は、総得票数3591票のうち、田中1899票、島田1692票という結果になり、田中候補が逆転勝利しました。

田中総長は、総長選立候補の弁として「将来計画書」を発表しています。そこでは、世界で輝くWASEDAを実現するためには早稲田の全学生が在学中に一度は海外に出て、外から日本を見る環境を整えたい。教員が研究に集中できるように、不必要な会議を減らして研究時間を確保したいと述べています。また、生命医科学の研究・教育を抜本的に拡充する必要があり、医学部を増設したいと述べています。しかし、医学部の新設は全国医学部長病院長会議の承認が必要で、ほぼ不可能です。そのため実現可能な戦略に絞り、単科医科大学の吸収合併を進めようと考えています。

総長の任期は1期4年ですが、2期8年は総長を務めるでしょうから、この8年で早稲田大学医学部が実現するか注目されます。大いに期待しましょう。



第5回若手校友の集い

「若手校友の集い」が、2018年12月8日(土)に開催されました。これまで夏に開催されていましたが、今回は初めて忘年会として企画されました。

この集いは早稲田大学の50歳未満のOBで、品川出身、在任、在勤といった品川区に縁のある若手校友の会です。また、これら品川のメンバーと交流したい若手校友にも門戸を開き、異業種交流や新しい出会いを楽しむようになっています。

会場は、北品川の地域交流施設カフェアンドホールアワーズ(CAFE & HALL ours)でした。予定時間の午後6時には予定以上の参加があり、63名が集まりました。用意した二次会の居酒屋にも大勢が移動し、大いに盛り上がりました。

第6回若手校友の集いも企画準備しています。お問い合わせ先はinfo@shinagawa-waseda.netです。品川稲門会ホームページも検索してみてください。

